

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

3月半ばの深夜、ハノイのノイバイ国際空港から中部国際空港行きの便の搭乗口付近にベトナムの若者たちが大勢いた。グループごとに分かれて整列し、各グループがおそろいのカラフルなウィンドブレーカーを着ていた。そこに日本の企業名が入っている。東海地方の企業で働くのか、技能実習を受けるのであろう。

希望の中に不安も見え「①」するその姿は、昭和の集団就職を想起させた。この中に日本の地で家族を育み、日本で①（ ）をうずめていく者もいるかもしれないと、《1》考えた。

4月、今後の日本社会の大きな変動に関わる方針と報告書が発表された。政府は、在留期間の更新の上限がなく、家族も帯同できる外国人労働者の枠（いわゆる「特定技能2号」）を拡大する方針を発表した。数年ほどで熟練した外国人労働者が帰国してしまうことは大きな《a》であるという経済界からの声もある。

また、厚生労働省の研究所による将来推計人口の報告書が公表された。2070年の人口が現在の7割に相当する8700万になると推計され、前回推計の8323万人に比べると増えているものの、少子化の②トレンドが《2》強まることは前提とされている。ではなぜ増えたかといえば、外国人の数が増えると推計されているからである。外国人の割合も現在の2・2%から10・8%になる。

*

特定2号の拡大は政府が方針として打ち出した段階に過ぎないとはいえず、《3》日本社会がいま考えなければならぬ問題とつながっている。この方針に対しては、移民や難民の問題で苦悩しているヨーロッパの事例が持ち出され、危惧の声があがっている。《4》2018年に特定技能制度の導入を検討した時点から「事実上の移民受け入れ」だという批判の声もあった。

移民を多く受け入れてきた《b》であるヨーロッパの経験から、受け入れのあり方など、学ぶべきことは多い。《5》、その経験には、周辺諸国の危機により、多数の難民が急速に到来することから来る問題も含まれ、日本の状況とは《6》異なる。

また、特定2号が適用されるためには熟練した技能が必要であり、在留期間の制限がある特定1号を経た者が念頭にある。このような「段階を踏んだ限定的な受け入れ」と位置付けるのが適当だろう。

とはいえ、日本社会は大きく変わる分岐点にある。段階的といっても、長期的にみれば社会は大きく変質し、その《A》は不可逆的なものとなる。帰化する者も増えるだろう。経済政策の妥当性や外国人の権利保障の問題に加えて、「日本国民」とは何かという問題が重要となる。

4月の衆議院議員補欠選挙でもウイグル系日本人の方が当選したことが《B》的な出来事であろう。変化といってもこれまでの延長線上にある。変化にも限界があり、たとえば、日本語を捨てて英語を皆で使いましょうということにはならないし、なれないだろう。

*

この問いかけに対する警戒は大きい。従来、「国民」すなわち「ネイション」の内実を問うといえば、狭隘な愛国心と関連付けられる、排外主義的なナショナリズムの《c》につながる《d》が《c》《d》されてきた。

しかし、20世紀末ごろからナショナリズムについては、リベラル・デモクラシーとの結びつきが指摘され、その積極的な意義が見直されつつある。個人の権利は無色透明なものではなく、特定の文化的文脈で保障される、また、国家への紐帯^③があるからこそ政治参加の動機が生まれる。このような理屈で、むしろ豊かな愛国心こそが近代的な価値であるリベラル・デモクラシーの基盤となり、また、それを《②》のだと主張されるようになってきた。紐帯や愛国心の内実について争いはあるものの、このように《X》な関係を見いだし、《c》《c》する立場は「リベラル・ナショナリズム」と呼ばれている。

日本国憲法の文言も見てみよう。「国民」の要件に直接関わる憲法10条には、「日本国民たる要件は、法律でこれを定める」とあり、法律^④レベルにその答えを《③》、実に素っ気ない。しかし、前文をみると、「戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」し、また、「恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚する」存在として「国民」が熱く描かれている。このような前文が置かれた歴史的背景はこれまでの日本国民においても共有されるべきものであり、また、これからの日本国民にも語り継がれるべきものである。これからの国民には、今後日本に帰化する移民も含まれる。

共通の歴史や体験を踏まえてこそ、その国の権利や政策の中身は豊かなものになる。もっとも、（私も含めて）「日本国民」とされる人々がどこまで自国の文化や歴史に対して《④》姿勢を維持しているだろうか。また、先述のウイグル系日本人の候補者に対しては、その出自を理由に厳しい批判がなされていたが、それは自分たちにも向けられることを《e》しなければならない。

（松尾 陽「外国人の受け入れ 変わる社会の『国民』とは」）

問一 「①」「②」「③」「④」に最適なものを次の中から選び、最適な活用形に直してひらがなで答えよ。
真摯だ 育む 委ねる 隠れる

問二 《a》《b》《c》《d》《e》に最適なものを次の中から選び、漢字で答えよ。
ようご いたで けねん かくご せんだつ

問三 《A》と《B》に最適な語を答えよ。ただし、次のいずれかの外来語と同意の日本語（漢字）二字である。
チャレンジ シンボル プロセス システム

問四 傍線部①～④について、次の問いに答えよ。

- ① 「（ ）をうずめて」の（ ）に最適な漢字一字を答えよ。
- ② 「トレンド」の意味を二字で答えよ。
- ③ 「紐帯」と同じ意味の語を抜き出せ。ただし同じ意味段落（意味段落の区切りは「*」の中からとする。
- ④ 「レベル」の意味を漢字二字で答えよ。

問五 《1》《2》《3》《4》《5》《6》に最適な語を次の中から選び、記号で答えよ。

ア さらに イ だいぶ ウ ただ エ ふと オ まさに カ もともと

問六 《X》に最適な語を本文中から抜き出せ。

問七 次の一文が本文から抜け落ちている。入る部分の直前の十字を答えよ。ただし句読点を含む。

変質する社会の中で何を保持するのか、そのような流れで「日本国民」とは何かが問われることになる。

〔三〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ウクライナ戦争の開始から約1年半。日ごと積み重なる犠牲者を前に、「①」終わらないか、いぶかしく思う人は多い。

戦争が終結しない理由は「②」多重だ。ここでは、戦後にウクライナの安全を保証することの難しさが、戦争継続の最大の理由になっている点に着目する。

戦争を終わらせる簡単かつ正しい方法は、侵略側のロシアが撤兵することだ。力によって他国を侵犯するのは国際法と国連憲章に反する。その大本のルールに戻れば良いだけ、なのだ。

しかし、民間軍事会社ワグネルの武装反乱を経ても「③」、ロシアのプーチン大統領が侵略を中止し撤兵する気配はない。彼の中では、ウクライナはロシアと一体であるべきなのだ。

ウクライナが頑強に抵抗を続け、^Aそれを西側が支援をしているから戦争が続いていると考える人もいるだろう。

だが、ウクライナに今、^B「和平」を強いるのは、大義のない侵略と全領土の20%が占領されたままの状況を「④」^①を意味する。侵略が「④」を強いるとなれば、世界中でその「②」が高まる。それは正しいだろうか。

さらにウクライナは核を放棄した国だ。その国に核保有国が侵略するのを許せば、核不拡散にも悪影響が出る。

それでも、命は地球よりも重く、^Cそのためなら現状固定型の停戦の方が、ナショナリズムに凝り固まって犠牲者を出し続けるよりもまし、との考えがよぎるだろうか。

既に2014年以降ずっと侵略を受け、犠牲者を出し続けているウクライナに、その考えを押しつけるのは不当だ。いったん停戦しても、いずれまた機を見てロシアから攻め入れられ、領土を削り取られることになり得る。

この段階で現状固定による停戦を説くのであれば、将来においてウクライナが侵略を受けないという保証の道筋を提示する義務がある。現在の犠牲者を嘆く一方で、将来再び犠牲者が出る見込みに目をつぶるのは、論理が一貫していない。

「④」この点が戦争の終わらせ方を考える上での「③」だ。非戦論者だけでなく実は誰も、ウクライナに対し将来にわたる安全を保証する^②すべを持たない。

確実な保証は同国の北大西洋条約機構(NATO)への加盟だろう。同条約第5条は、一加盟国への侵略を全加盟国への侵略と読み替え、軍事的に支援する義務を課す。

重い「④」ゆえ、米独をはじめ加盟国は、ウクライナの加盟に^③ちゅうちょする。未加盟でも、将来における侵略に際し再び軍事支援をすると約束をしても、第5条の代わりにならない。その約束もまた、主要国の政権が代われば、

《5》がおぼつかなくなる。国連は機能《6》のままであり、どの大国も保証をできずにいる。

そうすると、ウクライナの《A》には別の意味が出てこよう。つまり14年のものであれ、22年2月のものであれ、旧国境まで押し戻すという成果そのものが、唯一の具体的な安全の保証になる。侵攻しても押し戻されるという前例をロシア側に《7》することによってのみ、自らの安全が保たれるというわけである。

1939〜40年の「冬戦争」でソ連の侵略を受けたフィンランドは粘り強く抵抗し、国土の10%を失ったものの、独立を維持した。もう長い間、フィンランド国境にロシア軍は《8》されておらず、侵略の意志は《9》したと思われる。

ウクライナとフィンランドを同列に論じるわけにはいかないが、歴史的には一番近い事例だろう。NATOに入れないままウクライナの安全を保証するには、ロシアに侵略しても無駄だと思わせるほかに、そのためには侵略前の状況を《10》する以上に効果的な手はない。

それでも、ウクライナに反撃をやめろという人は、同国の安全の保証に別の道筋を提供すべきである。ウクライナに同情しつつもNATO加盟並みの保護を与えられない国は、《5》原状《10》までウクライナが反転攻勢する必要性を認め、支援すべきである。

D ブーチン氏が諦めない限り、残念ながら、ウクライナの反転攻勢、戦争継続は^④是とせざるをえない。

(遠藤 乾 「戦争が終わらない理由 《B》」)

問一 「①」〜「⑤」に最適な語を次の中から選び、記号で答えよ。

ア せめて イ なお ウ なぜ エ もちろん オ まさに

問二 傍線部A「それ」とは何か。本文中の表現を用いて十一字以上、十五字以内で答えよ。

問三 傍線部B「和平」とは具体的に何か。本文中から六字以上、十字以内で抜き出せ。

問四 傍線部B「和平」に「」をつけている理由に該当する部分を本文中から四十六字以上、五十字以内で抜き出せ。

問五 《 1 》 《 10 》 に最適なものを次の中から選び、漢字で答えよ。

ふぜん

きも

こかつ

りこう

かいふく

こくいん

せいやく

てんかい

ゆういん

ようにん

問六 傍線部①～④の意味を五字以上、十字以内で答えよ。

問七 《 A 》 に最適な語をこの後の本文中から五字以内で抜き出せ。

問八 傍線部 C 「その」とは何か。本文中の表現を用いて、六字以上、十字以内で答えよ。

問九 傍線部 D で「諦める」とは具体的にどうすることか。「こと」に続く形で本文中から六字以上、十字以内で抜き出せ。

問十 《 B 》 には戦争が終わらない理由が入る。本文中から十六字以上、二十字以内で抜き出せ。

三

ハクビシンの足跡（A）と比較して、タヌキの足跡（B）の特徴を五十字以上、六十字以内、二文で述べよ。

A



前足



後足

B



前足



後足